

令和元年(2020年)4月6日(月)

公益財団法人広島平和文化センター

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 副館長：大瀬戸

電話：543-6271

担当：橋本

## 楳山ヒロ子さんの遺影が登録されました

### 1 登録された原爆死没者

かじやま

楳山ヒロ子さん(1944-1960)は、生後1年7か月の時、爆心地から1.25km離れた平塚町の自宅で被爆しました。傷ひとつ負いませんでしたが、昭和35年(1960年)3月、体に異常を感じ広島市民病院に緊急入院、入院6日後に急性白血病のため亡くなりました。

わずか16歳で命を閉じる前年の昭和34年(1959年)8月6日の日記(広島平和記念資料館蔵)には、次のように記されていました。

「あのいたいたい産業奨励館だけがいつまでもおそろげん爆を世にうたえてくれるだろうか。」(部分、原文のまま)

この日記に感銘を受けた「広島折鶴の会」が中心となって、現在の原爆ドームの保存を求める運動が始まり、昭和41年(1966年)、ついに広島市議会が保存を決議しました。そして、被爆50周年にあたる平成7年(1995年)に国の史跡に指定され、翌平成8年(1996年)に、ユネスコの世界遺産(文化遺産)への登録が決定されました。

### 2 遺影の提供者

寺田正弘氏(楳山ヒロ子さんの中学時代の同級生)

### 3 遺影の提供について

登録された遺影をデータ(JPEG)にて提供できます。

提供者：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

追悼平和祈念館において下記関連書籍を収蔵しています。

広島折鶴の会編 『爆心地 原爆ドーム保存運動の中から』 1967年

寺田 正弘/吉村 勝文/中村 秀次編 『ある日 楳山ヒロ子の日記』 2013年

寺田 正弘/中村 秀次/吉村 勝文編 『原爆ドームと楳山ヒロ子 ヒロ子の日記と原爆ドームの保存』 2019年



楮山ヒロ子 (1944-1960)  
1959年撮影